

【果樹】の【高温】対策について

<8月>

宮崎県総合農業試験場専門技術センター

【果樹全般】

(1) 予想される被害状況

高温に伴う乾燥による生長及び果実肥大の低下。
ハダニの増加。

(2) 事前対策

- ① 用水の確保に努め、適宜かん水を実施する。極端な乾燥下では、土壌表面へのかん水は根域に到達しない場合があるため、動力噴霧器でのかん水を行う場合は、土中にかん水ノズルを差し込んで直接根域にかん水する。
- ② 土壌の乾燥防止のため、草刈り、敷き草を行う。クリにおいては収穫準備にもなる。
- ③ 温州みかんで成熟期が近づいているものでは、急激な土壌水分の変化で裂果が起きることがあるので、少量ずつのかん水を実施する。
- ④ 発生動向に注意し、早めの防除を実施する。

【露地かんきつ】

(1) 予想される被害状況

高温に伴う日焼けの発生。

(2) 事前対策

- ① 日焼け果発生軽減のために、炭酸カルシウム水和剤等の散布により果皮の温度上昇対策を行う。
- ② 袋かけを行うかんきつについては、早めに実施する。

【完熟きんかん】

(1) 予想される被害状況

6月下旬から7月上旬の花が結果した果実の、開花後30～60日の間の高温に伴うす上がり果実の発生

(2) 事前対策

- ① 遮光資材による遮光で、施設内の温度低下を図る。
- ② 十分なかん水により、樹体内水分を確保する。

【施設果樹共通】

(1) 予想される被害状況

果実の日焼け。
落葉及び落果。

(2) 事前対策

- ① ハウスのサイドビニルを解放するとともに、循環扇等を利用して通風を図る。
- ② 遮光資材による施設内の温度低下を図る。